第４分科会　研究課題「組織・運営に関する課題」
研究主題「家庭や地域社会との継続的な連携・協働を可能にする組織づくり及び運営推進に向けての教頭の関わり」

１．主題設定の理由

学校における教育活動が効果的に展開されるには、家庭や地域社会と学校との連携を密にすることが必要である。「宮崎県教育振興基本計画（令和５年６月）」の施策にも、「学校・家庭・地域が連携を深め、協働して未来を担う子供たちを育むとともに、持続可能な地域づくりにつながる取組を効果的・持続的に推進するための体制づくりや支援の充実を図る必要がある。」と記されている。

昨年度、本研究班は、コミュニティ・スクール導入に向けた教頭の関わりや取組を検証し、研究の成果として、学校の課題を地域と共有したことが、よりよい教育活動へつながることが検証された。

しかし、研究の課題として地域住民や保護者、企業等の具体的な参画においては、各学校の教職員から以下のような意見が各学校共通して出された。

- 概要は理解できたが、外部と学校をつなぐことには、窓口や日程調整などの解決すべき課題が多いと感じた。
- 地域の人とどんなことをするのか、できるのか、どのような人材がいるのか、もっと知りたい。
- 地域を素材とした生活科や社会科見学等で連携を図りたいが、事前の打合わせ等で担当の教職員に負担がかからないようにする必要がある。

そこで、今年度は、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動（地域学校協働活動）が効果的・持続的な取組になるための具体的な取組をどうすればよいかを検証するために本主題を設定した。

２．研究のねらい

地域と学校が目標やビジョンを共有し、地域住民や保護者、企業等の幅広い参画を得るための地域との組織的な連携や運営推進に向けての教頭の関わりについて究明する。

３．研究の概要

（１）研究の内容

①　地域と学校が目標やビジョンを共有するための組織づくりとその取組

②　地域と学校が連携・協働して行う活動が効果的・持続的な運営となるための教頭の役割

（２）研究の実際

①　地域と学校が目標やビジョンを共有するための組織づくりとその取組

ア．高岡地区学校運営協議会

令和４年度にスタートした高岡地区学校運営協議会の第１回目の協議会では、テーマを「高岡の児童生徒に身に付けさせたい力」として、運営協議会委員と高岡地区三校の教務主任が５つのグループに分かれ、ワークショップ形式で協議を行った。

各グループから出た高岡の児童生徒に身に付けさせたい力をカテゴライズし、全体の場で発表し、共有化を図った。

５つのグループから出された項目を大きく６つに分け、その中で本年度の課題として三つを共有した。さらに、この課題を「学校・地域が一緒にやれることは何か」というテーマで協議を深めたことで、地域と学校が目標やビジョンを共有することができ、令和４年度の具体的な実践である高岡小学校キャリア教育プログラム『高岡ゆめパーク学習』へとつながった。

イ．高岡ゆめパーク学習

令和４年度の『高岡ゆめパーク学習』では、「高岡の大人達の仕事を知り、高岡（地域）や仕事への関心を深めよう」をテーマとし、地域の７つの事業所と消防団の参加があり、当日は、各事業所の仕事を実際に体験したり、仕事に対する思いや仕事を通しての地域への貢献について話を聞いたりした。

商工会役員の方をコーディネーターとし、学校と事業所のパイプ役を担っていただいた。

コーディネーターのおかげで、学校側の思いや学習のねらいと事業所側の思いや学習への期待等を綿密に共有することができた。

令和５年度の『高岡ゆめパーク学習』では、穆佐小学校の児童と合同で行い、高岡中学校との連携もより強化し、参加事業所数も１１に増え、高岡総ぐるみの『高岡ゆめパーク学習』となった。

② 地域と学校が連携・協働して行う活動が効果的・持続的な運営となるための教頭の役割

学校の窓口業務を担う教頭は２・３年の異動が多いため、その後の打合せや会議等は、地域連携担当に任せられるよう育成することが大事である。具体的な取組として、地域連携担当を複数にし、所属年数が違う職員を配置し、「担当がいなくなったら活動が衰退した。」といった状況を避ける組織をつくることが必要であろう。

活動継続化を図るためには、地域と連携した取組と連絡の取り方など、全職員に周知し誰でも地域連携担当を担えるような状態にしておくことも必要だと考える。

文部科学省は「これからの学校と地域」（令和２年３月）で、学校と地域が同じ目標に向かっていくと様々な効果が期待されると謳っている。学校の目標、すなわち「学校経営ビジョン」の実現に向けて、地域や保護者にも浸透させる取組を行うことが必要となってくる。そのため教頭は、地域や保護者から学校運営に必要で的確な情報を積極的に幅広く収集していくことも大切である。

４．まとめ

効果的かつ持続的な学校運営と地域学校協働活動の仕組みを構築するためには、それぞれのＰＤＣＡサイクルを回しつつ、お互いが連携・協働することが重要である。前年度中に次年度の方針や計画を完成させて ４ 月からスタートができるようにすると、より一層充実した活動になる。

また、昨今、小学校では「子ども会離れ」が地域でも大きな課題となっており、家庭が地域との連携を望まない傾向があり、育成会長や自治会長等から課題として挙げられることが多い。

家庭と地域が繋がっていることが地域社会の安定には必要だとすると、学校として教頭として、より家庭と地域のパイプ役となれる方策がないか、探っていく必要もあると考える。

なお、現在、地域と学校をつなぐ役割である教頭が、学校運営協議会のメンバーに位置付けられていない。今回の『高岡ゆめパーク学習』のような地域と学校が目標やビジョンを共有し、充実した学習活動を行うためには、教頭の他の役割や業務とのバランスを鑑みながらも、学校運営協議会のメンバーへの位置付けについて、検討する必要があると考える。